



(前ページからの続き)  
 ましよう。  
 ③通勤途上、業務上の災害(ケガなど)があったらすぐに届けること。

2. 建交労と事業団について。赤羽目寛事業団・高齢者部会長を講師に行い、  
 ①労働組合とは労働者による労働者のための生活と権利を守る憲法と法律によつ

て守られている組織です。  
 ②事業団は、建交労(全日自労)が中心になって作られた組織です。  
 ③労働組合は高齢者の働く場所を確保するために活動しています。

3. 高齢者事業団とは。安藤忠理事長が行い、2006年4月から特定非営利活動法人(NPO法人)

となりました。  
 ①高齢者の「雇用機会の拡充を支援する活動」、会員が活動資金を拠出しあつて働く入会金、年会費。非営利の自主的な民間の就労を目的とした団体。「官営」のシルバー人材センターとは基本的に異なる)

②NPOの原点は「社会貢献」です、会員は常に作

業にあたって社会奉仕の姿勢が求められています。  
 ③「現場就業規則」を基本に、  
 ①安全・安心の作業。  
 ②無事故・無違反。  
 ③トラブル・クレーム無し。  
 ④マナーを守る。  
 ⑤節度ある生活で健康管理に努める。  
 以上のような要旨の基本

的な話がありました。青木副理事長は、現場での基本は、「報告、連絡、相談」(ホウ、レン、ソウ)して問題の解決をされたい、という話があり、閉会のあいさつがされ、21名の参加者に、アンケートと感想文を書いてもらい終了しました。



正面は新会員学習会で話す赤羽目寛部会長

赤羽目寛 健康第一のスローガンで今年も頑張ります。コロナ禍インフレが流行ですが私はちには負けないゾー身体に気をつけて、働きたい。昨年よりさらに向上。新時代、今は何をやるべきかを考えて挑もう。健康第一で、仕様書に基づく良い仕事を。コロナに負けず、今年も元気に頑張ります。理事をすくなくして下さい。赤字になる。健康に気をつけてがんばろう。今年も今年！年女！ピョンピョン飛躍します。

## 新春の抱負

下谷昌幸 今年もガンバ。うのごとくピョン！ピョン！と。  
 高林知一 心の健康身体は明日への元気之源。  
 中田 清 高齢者 死ねとばかりに 負担増  
 深井健二 安心して働ける環境作りを推進しています。  
 藤田 誠 役所の無茶ぶりを皆の力で乗り越える。  
 館野 綾 やるべきことを黙々と今年も取り組みます。  
 吉安信雄 新たな戦前にするな！平和を守ろう！  
 柳 春道 出来る事を一生懸命に行きます。  
 和田由紀子 今年も仕事を頑張る誰かが幸せを感じる良き年に。

## 大切なのは「仲間」と「学び」

郡山市で第59回交流集會を開催

全国事業団・高齢者部会は、述べました。そして、3名の10月22日(土)〜23日(日)福島県郡山市で第59回事業団・高齢者・介護ヘルパー運動交流集會を開催しました。

一日目は、安藤忠副部会長の司会で、高木哲次部会長の主催者あいさつ、角田季代子中央執行委員長の激励挨拶、福島県本部高齢者部会長の富塚塚夫さんより地元歓迎挨拶をうけました。

続いて、いわき市民訴訟原告団長の伊東達也さんによる記念講演「過酷事故発生から11年7ヶ月、福島から」がおこなわれました。

伊東さんは「復興庁発表の現在の避難者数は約3万人だが、実際には6万人以上の住民がふるさとに戻ることが出来ない。復興はいまだ遠い」と怒りをにじませ、国を被告とした訴訟で「国に責任はない」との不当判決が出され、政府は原発依存政策へ回帰しようとしている。原発なくせ、憲法9条守れ、核兵器動をすすめていきましよう



高木部会長の主催者挨拶

## 第35回日本高齢者大会in京都

(2022. 11. 23~24)

大会スローガン

まちから村からの連帯で ひとりぼっちの高齢者をなくそう

サブスローガン

高齢者も若者も手をつなぎ いのち・くらし守る政治



上:全体会の記念講演 前京都大学総長 山極壽一さん  
 下:講演で使用されたパネル

### 高齢化社会を活性化させる

- ・文化の担い手は高齢者
- ・個性と多様性に富む
- ・社交の作法を熟知している
- ・育児の担い手でもある
- ・効率的時間から自由

人間の幸福は文化に宿る

第35回日本高齢者大会in京都日本高齢者大会は、「まちから村からの連帯でひとりぼっちの高齢者をなくそう」を掲げ、今年35回目を迎えました。



全体会:京都から2023年開催の東京に大会旗が渡されました

前京都大学総長、前日本学術会議会長、総合地球環境学研究所所長の山極壽一さんが講演しました。テーマは「ゴリラから学んだ多様性と共生が生かされる社会づくり」

「文化的多様性に関する世界宣言」での「文化的多様性は、交流、革新、創造の源として人類に必要なものである」を引きながら「情報・通信ネット社会になっても、高齢者は文化の担い手であり育児の担い手でもあります。効率的時間から自由な高齢者こそ、社会を活性化させる」と話されました。

若者も手をつなぎ、いのち・くらしを守る政治を！憲法を生かし「高齢者人権宣言」で豊かにテーマにしています。今回は、第一日目に、5つの学習講座、9分科会、2つの移動分科会が取り組まれ、第二日目に、全体会・基調報告、記念講演、「日本高齢者人権宣言」を決定した歴史的な大会となりました。2日間でのべ二千人が参加しました。

第2分科会「全世代型社会保障」  
政策と高齢者の就労について

### 佛敎大学社会学部名誉 教授浜岡政好氏が講演

政府がすすめる「全世代型社会保障」政策は、国民医療費の伸び率抑制し年金支給額を抑え、社会保障制度を縮減させるために、高齢者の就労を促進し一層の負担増と利用抑制を意図するものとなっている。「年金、労働、利用、介護など社会保障全般」という表記に変わり、就労問題が社会保障の中に取り込まれた。低賃金労働力不足対策と社会保障費用の抑制のためである。

「生涯現役」として、定



浜岡政好名誉教授

年齢の引き上げ、年金受給開始時期の選択肢の拡大（70歳以降）、私的年金制度の拡充（高齢期に対応した金融商品）を進めている。高齢者世帯の所得に占める公的年金の割合は年々低下しており、無職世帯では社会保障収入だけでは生活費の実支出がカバーできていない。高齢者にとって就労は、もはや強制的なものに変容している。高齢者にとって生活のために自営

## 仲間の消息

### 入会

江東	高木	滋昭
墨田	上住	喜一
足立	氷上	周作
葛飾	清水	広海
新宿	中山	幸成
新宿	德里	政彦
新宿中央	石野	巖
世田谷	野口	光久
田中	田中	成三
武蔵野	萩原	成一

### 退会

江東	岩城	恒子（定年）
瀬尾	豊且（定年）	
鈴木	則雄	
足立	田角	保
宮尾	昇（定年）	
新宿	小浦	義昭
文京	近藤	吉徳（定年）
世田谷	阿部	千夏子（定年）
三鷹	大山	守道
新宿	太田	正明

### ご逝去

などの仕事や雇用労働を続けざるを得ないことは、自

律的な働き方ではなく、地域社会や他者のために何をしたらいいのかという社会に働きかける活動がそぎ落されていくことになっていく。

## 厚生労働省前 座り込み行動

12月5日～7日、

岸田政権がすすめる高齢



マイクで訴える共産党山添拓参議院議員

者のいのち、健康、人権をおびやかす政治の転換を求めて、高齢者の座り込み行動が5日、厚生労働省前で始まりました。

主催は日本高齢期運動連絡会で、7日まで3日間行われしました。

物価高騰のなかで、今年10月から原則1割負担の75歳以上の人の医療費窓口負担に2割負担が導入されたことや、6月分から年金支給額0.4%削減に怒りの声が上がりました。

全日本年金者組合の役員は、「現状の物価高騰に見合った社会保障費の拡充が

最優先だ。そうした要求を前面に、岸田政権を退陣に追い込む運動を広げていこう」と呼びかけました。

東京高齢期運動の役員は、物価高で食費や光熱費が上がり、高齢者の生活に大きく影響していると指摘。

「高齢者は恒常的に通院することが多いから医療費の本人負担が抑えられてきたのに、窓口負担を2倍化したのでは社会保障の後退ではないか」と批判しました。

すでに医療機関では高齢者が窓口負担の2倍化を理由に受診を控える動きがでている。一人ひとりの人権が保障される社会にするために市民が主人公の政治を実現させようと訴えました。

座り込み行動は、3日間で約80人が参加しました。

日本共産党から国会議員、都議10人が激励に参加されました。

この人は誰でしょう

前号写真の主は事務局の佐藤美香さんでした。